

2021年5月12日 全8頁

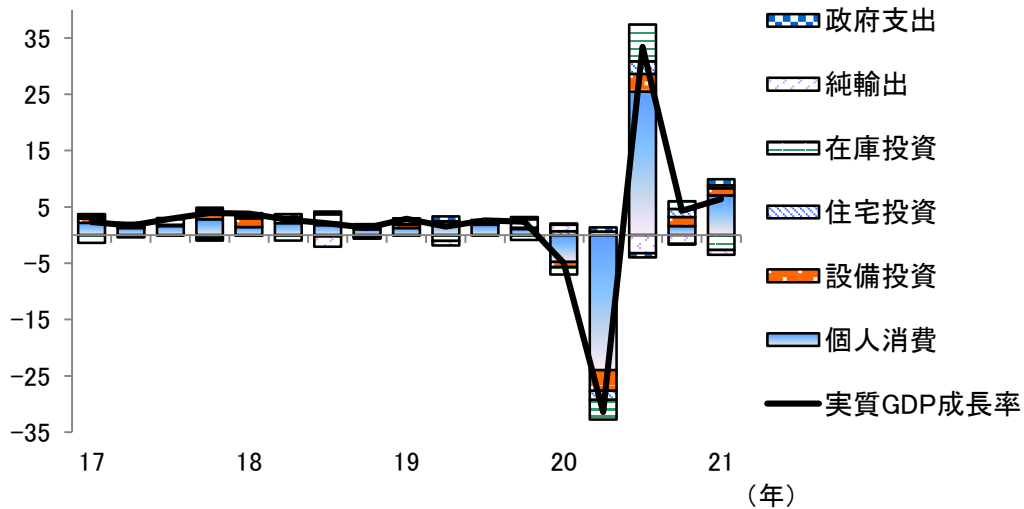
# アメリカ経済グラフポケット (2021年5月号)

2021年5月10日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美  
研究員 矢作 大祐

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



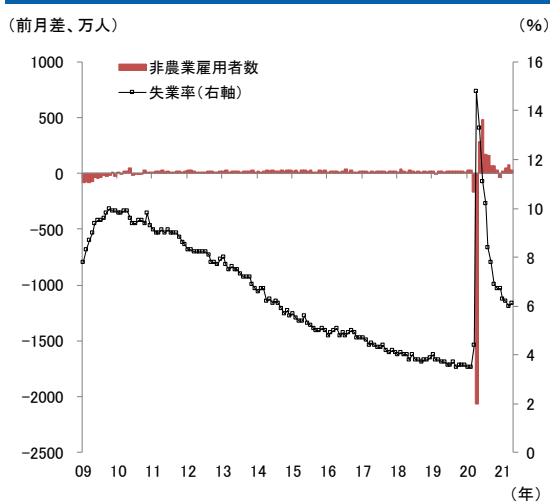
(前期比年率、%、%pt)	2019			2020				2021
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.5	2.6	2.4	-5.0	-31.4	33.4	4.3	6.4
個人消費	3.7	2.7	1.6	-6.9	-33.2	41.0	2.3	10.7
設備投資	0.0	1.9	-0.3	-6.7	-27.2	22.9	13.1	9.9
住宅投資	-2.1	4.6	5.8	19.0	-35.6	63.0	36.6	10.8
政府支出	5.0	2.1	2.4	1.3	2.5	-4.8	-0.8	6.3
輸出	-4.5	0.8	3.4	-9.5	-64.4	59.6	22.3	-1.1
輸入	1.7	0.5	-7.5	-15.0	-54.1	93.1	29.8	5.7
寄与度								
個人消費	2.5	1.8	1.1	-4.8	-24.0	25.4	1.6	7.0
設備投資	0.0	0.3	0.0	-0.9	-3.7	3.2	1.7	1.3
住宅投資	-0.1	0.2	0.2	0.7	-1.6	2.2	1.4	0.5
在庫投資	-1.0	-0.1	-0.8	-1.3	-3.5	6.6	1.4	-2.6
政府支出	0.9	0.4	0.4	0.2	0.8	-0.8	-0.1	1.1
輸出	-0.5	0.1	0.4	-1.1	-9.5	4.9	2.0	-0.1
輸入	-0.3	-0.1	1.1	2.3	10.1	-8.1	-3.6	-0.8

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

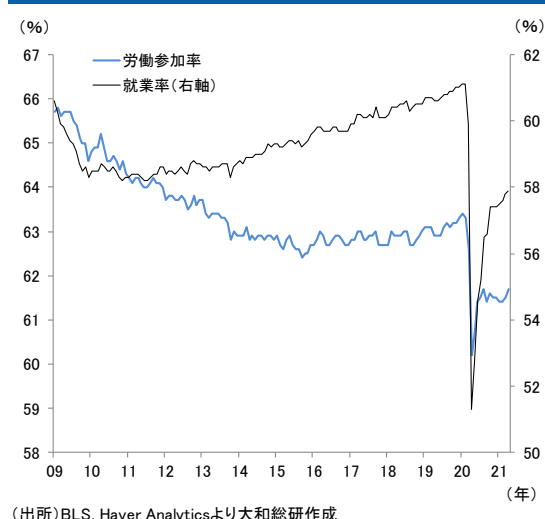
## 雇用環境<sup>1</sup>

- ◆ 4月の失業率は6.1%となり、前月から0.1%pt上昇した。失業率は改善が続いていたが、2020年4月以来の上昇となった。
- ◆ 4月の非農業部門雇用者数の前月差は26.6万人増となった。経済の回復により企業の採用意欲は高いものの、現金給付や失業保険給付増額の期間延長といった経済対策によって就業意欲が低下するなど、供給制約が要因となったものとみられる。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は29.4万人増となった。

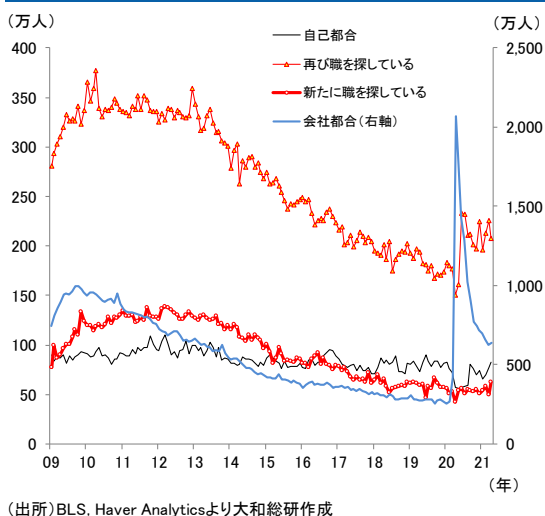
### 非農業雇用者数と失業率



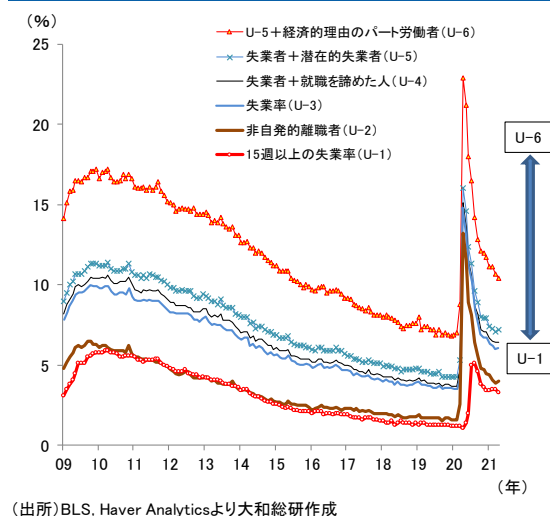
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率

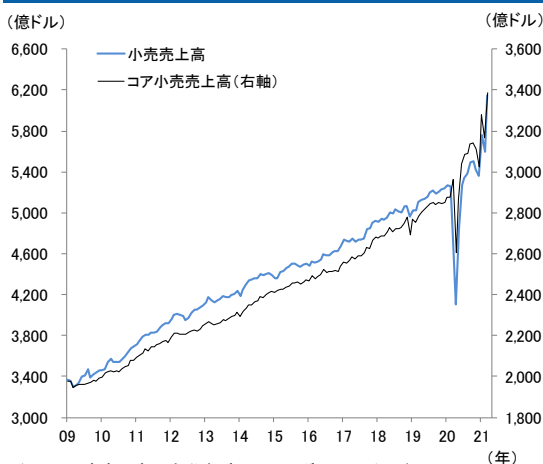


<sup>1</sup> 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+26.6万人と急減速」(2021年5月10日)参照。[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210510\\_022269.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210510_022269.html)

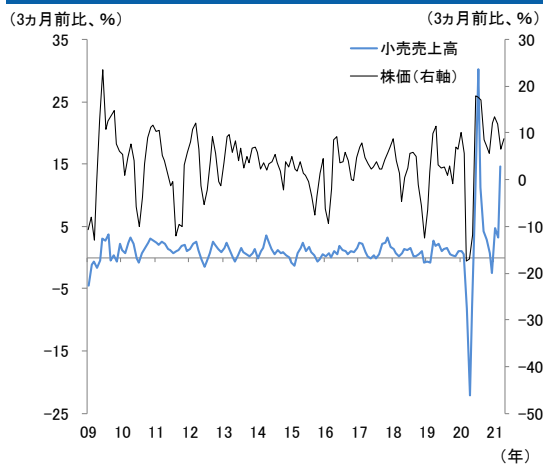
## 個人消費

- ◆ 3月の小売売上高は前月比9.7%増と、高い伸びとなった。政府による現金給付や、新型コロナウイルスワクチン接種の普及に伴う外出増などが消費を押し上げ、増加に転じた。コア小売売上高も同6.9%増加した。
- ◆ 4月の自動車販売台数は前月比2.5%増加し、年率換算で1,854万台となった。繰越需要や政府による現金給付が寄与し、2ヵ月連続で1,800万台を超える高水準となった。
- ◆ 4月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の84.9から88.3に上昇した。追加経済対策による経済回復への期待やワクチン接種の拡大などが消費者マインドを押し上げ、2ヵ月連続で上昇し、2020年3月以来の水準となった。

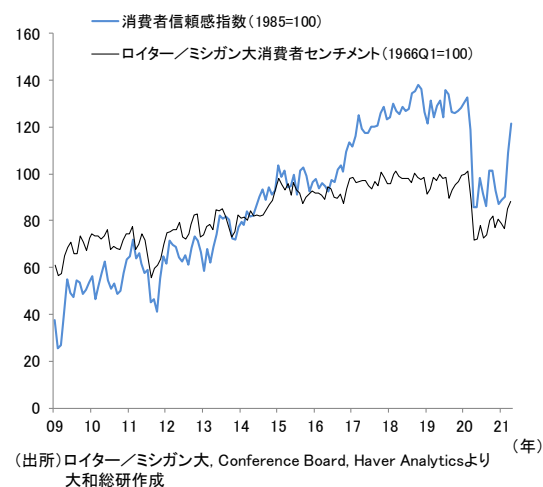
### 小売売上高の推移



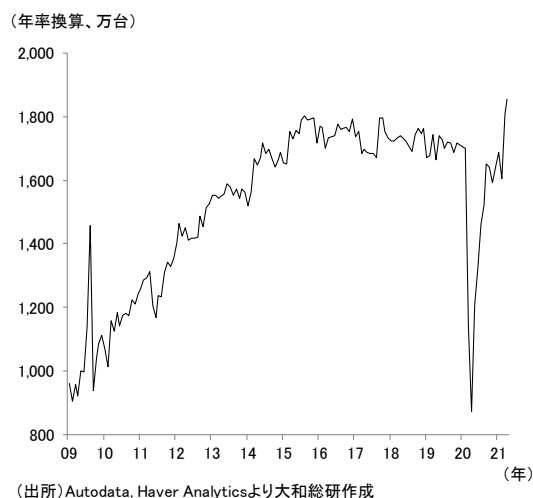
### 消費と株価



### 消費者マインド



### 自動車販売台数



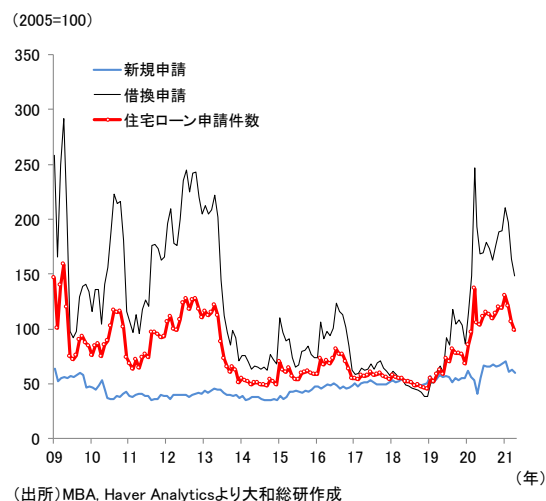
## 住宅市場

- ◆ 3月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比19.4%増の年率換算173.9万戸となった。極寒で中断していた着工が天候の回復により急速に進み、大幅減となった前月から回復し、2006年6月以来の高水準となった。
- ◆ 3月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比4.3%減の年率換算530.0万戸であった。記録的在庫不足とそれに伴う住宅価格の高騰で買い控えられ、3ヵ月連続で減少した。
- ◆ 3月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比20.7%増の年率換算102.1万戸となった。堅調な需要に加え、中古住宅の在庫不足が押し上げ要因となり、前月から大幅に増加し、2006年8月以来の高水準となった。
- ◆ 2月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.2%上昇した。低水準な住宅ローン金利が消費者の購買意欲を高めたことや、住宅在庫の不足が住宅価格の上昇の要因となっており、高い伸びが続いている。

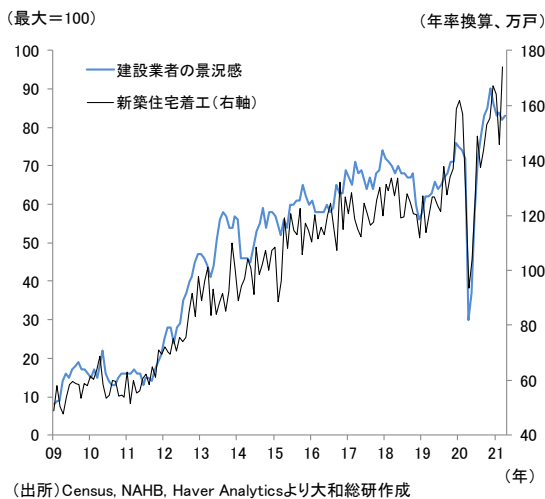
### 住宅販売（一戸建て）



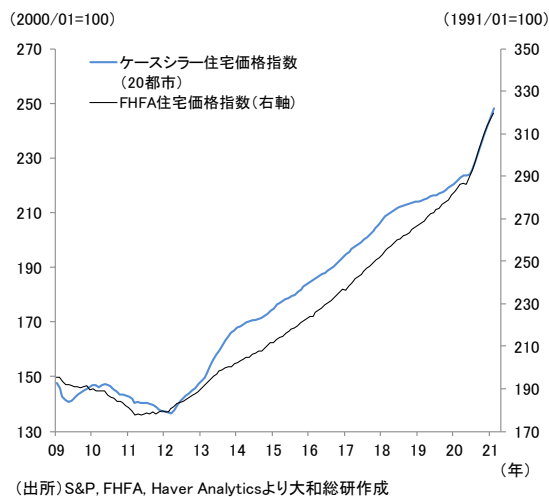
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



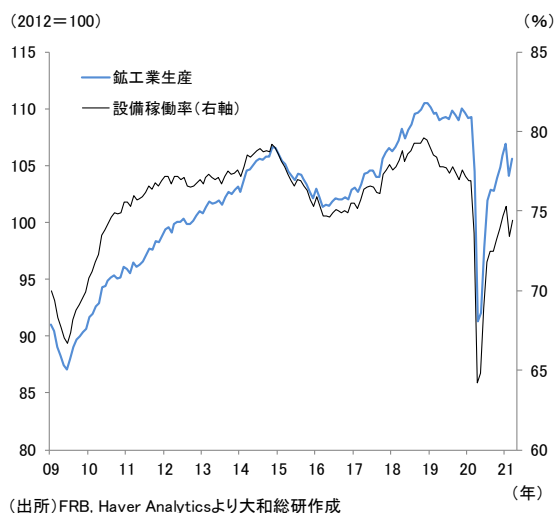
### 住宅価格



## 企業動向

- ◆ 3月の鉱工業生産指数は前月比1.4%上昇し、上昇に転じた。気候が温暖になったことによる暖房需要減で公益が大きく低下したものの、生産指数全体の約75%を占める製造業（SICベース）が同2.7%上昇したほか、鉱業も上昇し、全体を押し上げた。
- ◆ 3月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比1.2%増となった。経済の回復に伴う製造業の堅調さを背景に増加に転じた。
- ◆ 4月のISM製造業指数は前月から4.0%pt低下の60.7%となった。原材料の供給不足などが影響し、約37年ぶりの高水準となった前月から低下した。非製造業指数は前月から1.0%pt低下の62.7%となり、統計開始以降で最高水準を記録した前月から低下した。両指標ともに拡大・縮小の分岐点である50%を上回る高水準が2020年6月以来続いている。

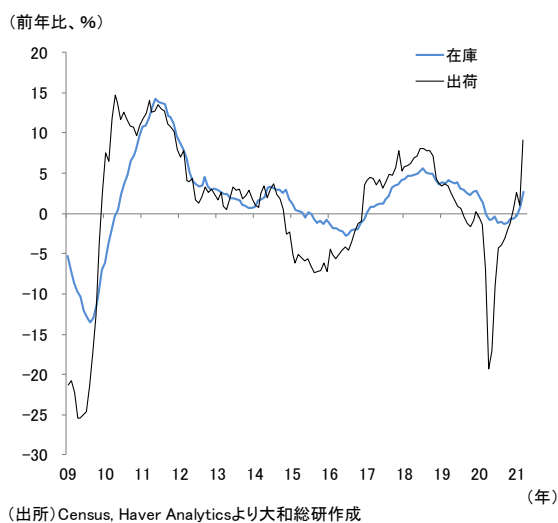
### 鉱工業生産と設備稼働率



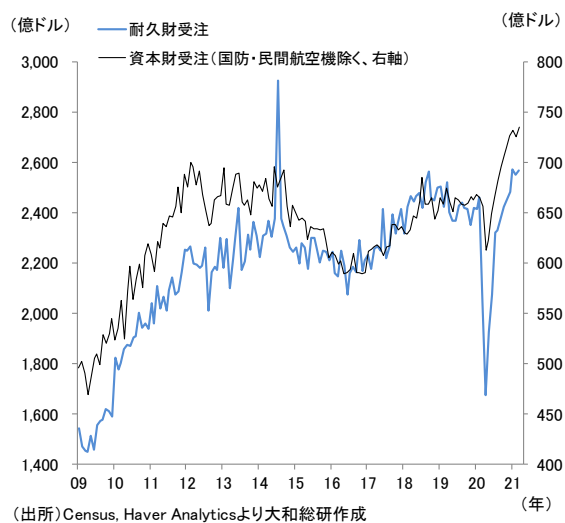
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



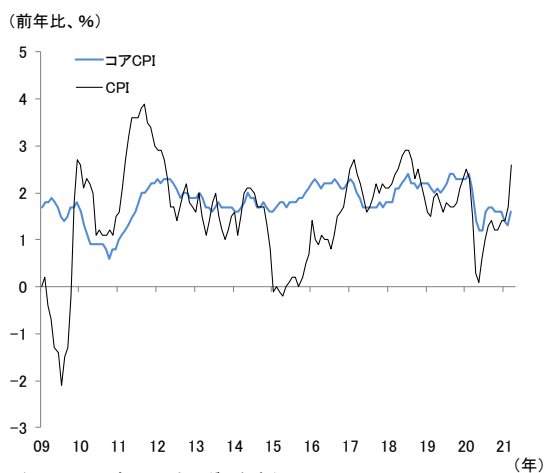
### 耐久財受注



## 物価動向

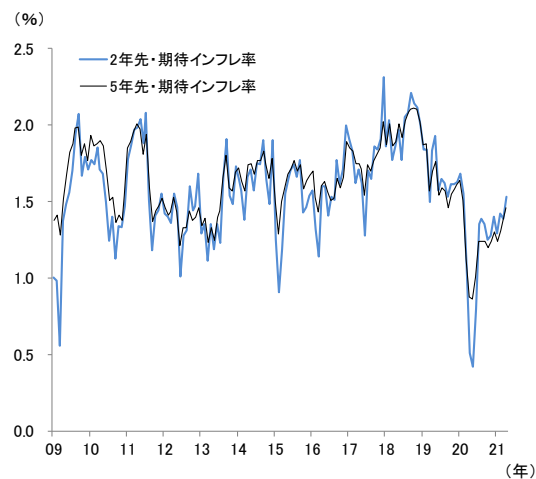
- ◆ 3月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.6%上昇した。ガソリン価格の上昇により前月から上昇幅が大きく拡大し、2018年8月以来の高い伸びとなった。コアCPIは同1.6%上昇し、前月から上昇幅が拡大した。
- ◆ 4月の2年先期待インフレ率は1.53%と前月から上昇した。5年先期待インフレ率は1.46%となり、3ヵ月連続で前月の上昇率を上回った。
- ◆ 4月末のWTI原油先物価格は63.58ドル/バレルとなり、3月末の59.16ドル/バレルから上昇した。OPECプラスの4月末までの協調減産維持が決定されたことに加え、米国経済の回復が期待されて上昇し、月末値としては2019年4月以来の高値となった。

### 消費者物価指数



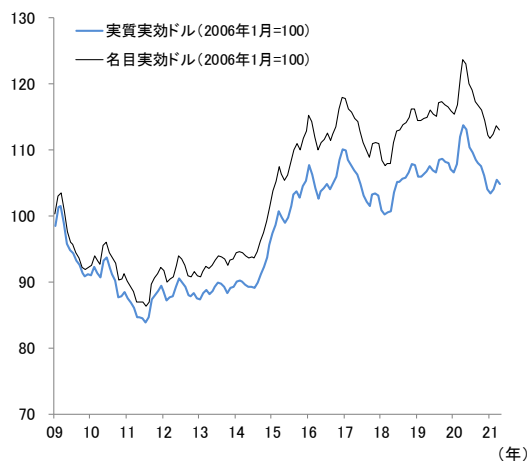
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。  
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 期待インフレ率



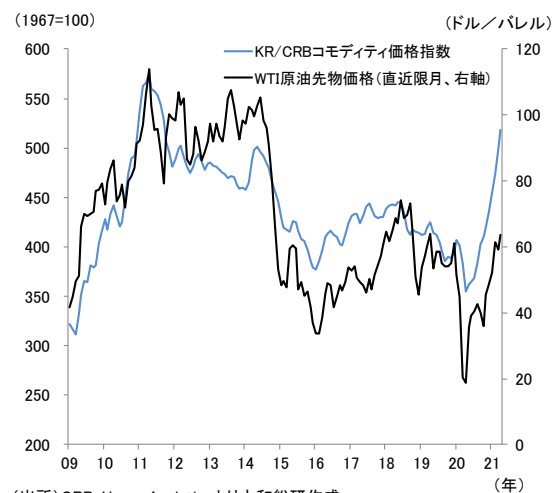
(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

### 実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

### コモディティ価格

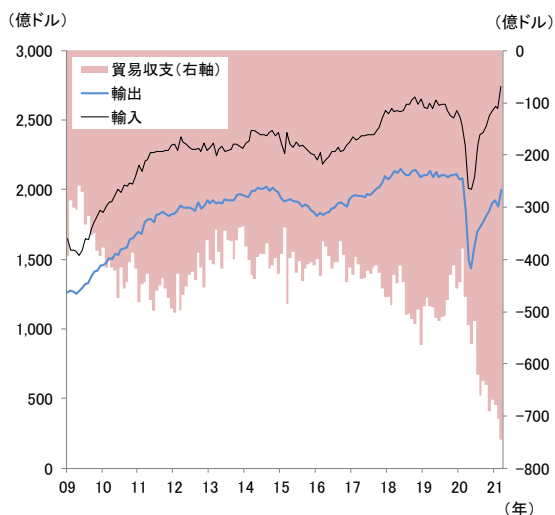


(出所)CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

## 輸出入・経常収支

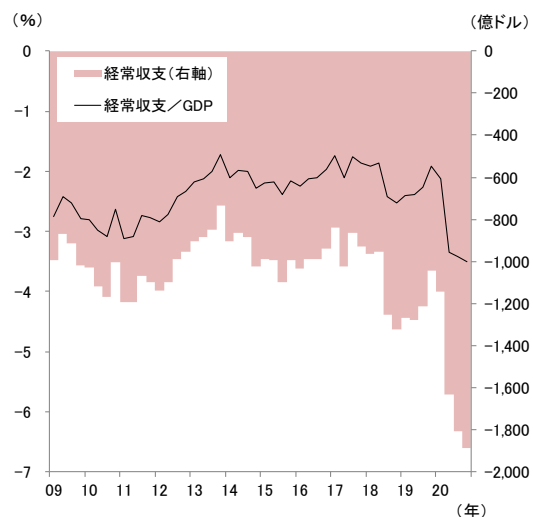
- ◆ 3月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比6.6%増加し、輸入も同6.3%増加した。この結果、貿易赤字は同5.6%増の744億ドルとなり、3ヵ月連続で拡大した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では非貨幣用金などの工業製品・原料が主に増加し、輸入においてはその他繊維アパレル・家庭用品といった消費財の増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が同57.3%増と8ヵ月連続で二桁台の大幅増となった一方で、欧州向けは同1.9%減、日本向けも同4.6%減となった。輸入は、日本からの輸入が同0.2%増、欧州からは同1.6%増、中国からの輸入は同103.1%増と伸び幅が大きく拡大した。

### 貿易収支動向



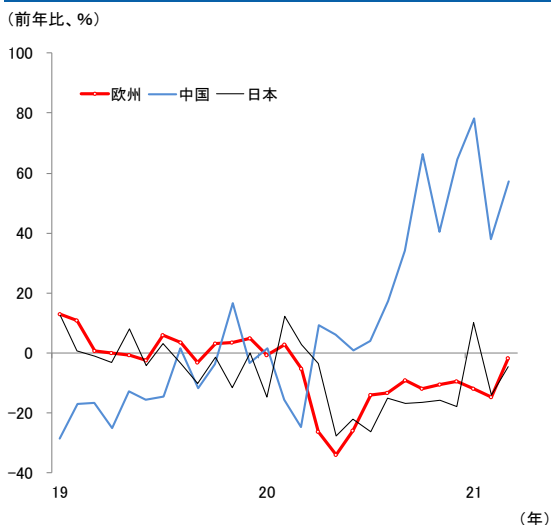
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 経常収支の推移



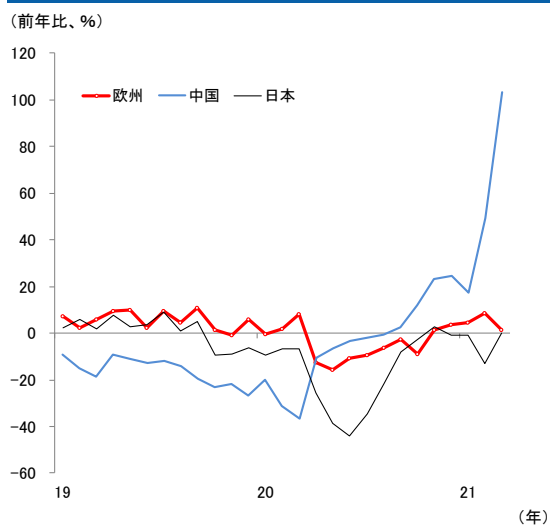
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

### 国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 国・地域別輸入動向

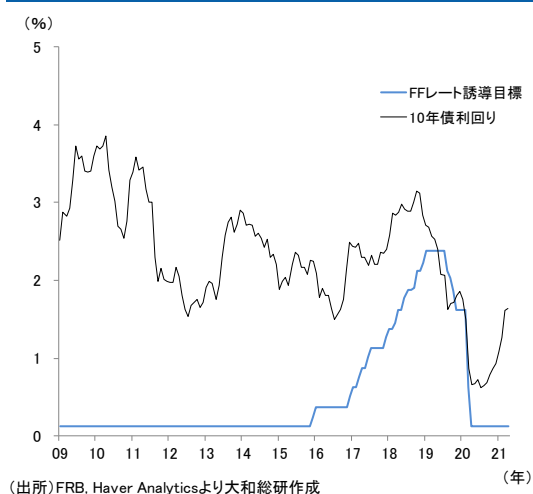


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

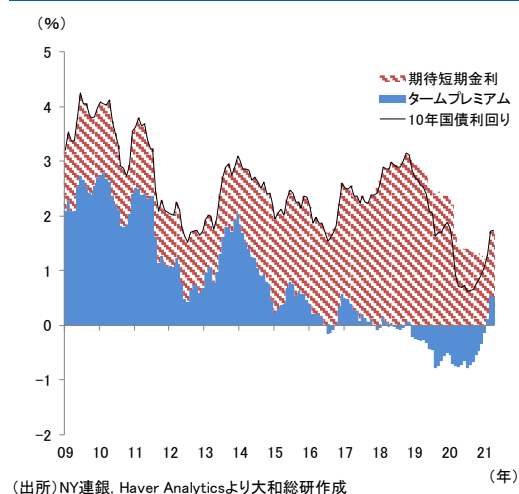
## 金融・財政

- ◆ 4月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レート目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれた。また、国債などの購入規模を変更しないことが決定された<sup>2</sup>。5月5日の週のFRBの資産残高は、平均で約7兆8,400億ドルであった。
- ◆ 4月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.64%となった。4月中旬にかけて長期金利は低下したものの、堅調な経済指標などを受けて月中平均値は前月から若干上昇した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）については、新型コロナウイルス経済対策による歳出増加のため、赤字幅が高水準で推移している。

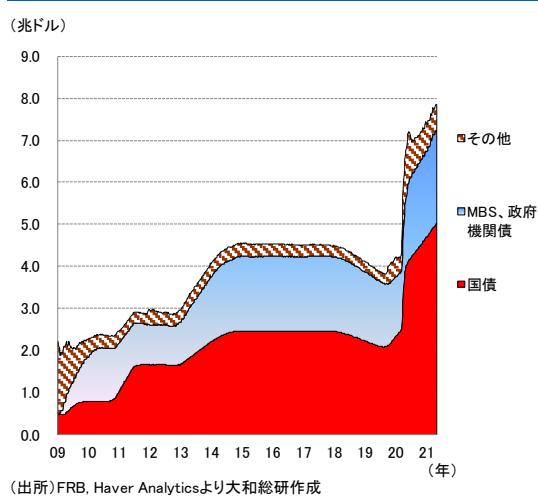
### 政策金利・長期金利



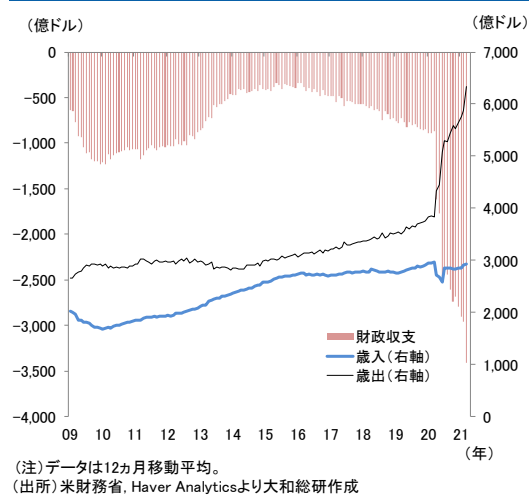
### タームプレミアム(10年)



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支



<sup>2</sup> 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC テーパリングに向け、進捗確認始まる」(2021年4月30日)参照。

[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210430\\_022257.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210430_022257.html)